

第3次燕市総合計画策定スケジュール（予定）

	項目	R3 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4 1月	2月	3月
令和3年度	市民等の意見反映						市民アンケート		市民参画WS				
	総合計画審議会				●第1回 7/6 ・令和2年度進捗管理							●第2回 書面協議 ・第2次計画 実績評価 ・第3次計画 策定方針	
	議会への説明報告												

	項目	R4 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5.1月	2月	3月
令和4年度	市民等の意見反映									パブ コメ			
	総合計画審議会				●第1回 7/7 ・第3次計画 策定諮問 ・令和3年度 達成状況 ・第3次計画 骨子案			●第2回 ・第3次計画 素案			●第3回 ・第3次計画 最終案 ・第3次計画 答申		
	議会への説明報告						●9月議会 ・第3次計画 骨子案			●12月議会 ・第3次計画 素案			●3月議会 ・第3次計画 最終案

第3次燕市総合計画骨子（案）

目次（第2次と第3次の比較）

第2次総合計画

第1部 総論

1. 計画策定の趣旨
2. 計画の位置づけ
3. 計画の構成と期間
4. 燕市を取り巻く社会潮流
5. 総合計画後期基本計画の進捗状況
6. 市民意識調査の概要
7. 人口減少から派生する本市の主要課題

第2部 基本的方向と基本目標

1. 本市の将来像
2. 基本的方向（政策体系）
3. 基本目標（重要指標）
4. 中長期の財政見通し
5. 計画の進行管理

第3部 戦略別計画

第3次総合計画

第1部 総論

1. 計画策定の趣旨
2. 計画の位置づけ
3. 計画の構成と期間
4. 燕市を取り巻く社会潮流と課題
5. 第2次燕市総合計画の進捗状況
6. 市民意識調査の概要
- 削除

第2部 基本的方向と基本目標

1. 本市の将来像
2. 基本的方向（政策体系）
3. 基本目標（重要指標）
4. 地方創生に向けた重点的取組
5. SDGsの実現に向けた取組
6. 戦略的シティプロモーション
7. 中期の財政見通し
8. 計画の進行管理

第3部 戦略別計画

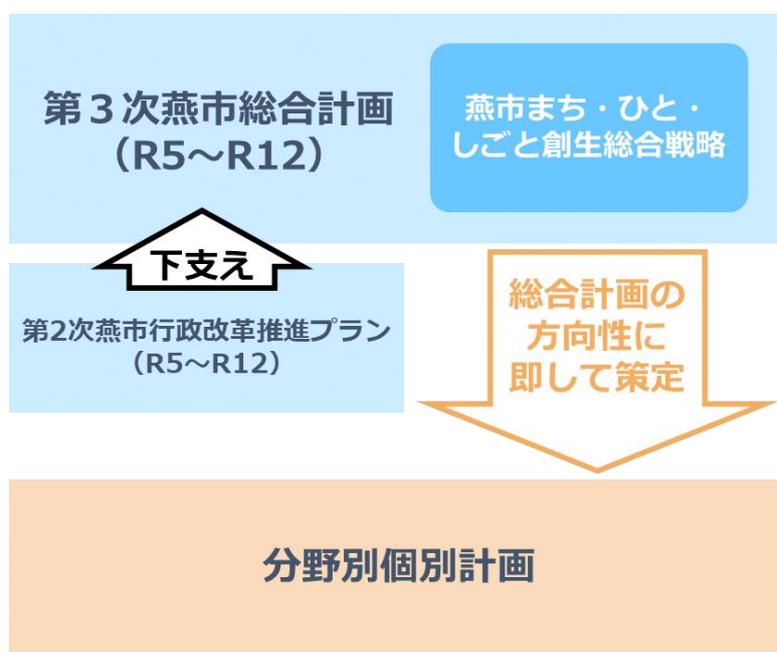
第1部 総論

1. 計画策定の趣旨

第2次総合計画が終期を迎えるに当たり、第2次総合計画の進捗状況を踏まえつつ、デジタル化推進等のポストコロナ社会に向けた取組や、カーボンニュートラルをはじめとする社会環境の変化、多様化する市民ニーズに的確に対応していく必要があるため、新たに「第3次燕市総合計画」を策定します。

2. 計画の位置づけ

- 本計画は、市政運営の方向性を示す最上位計画です。
- 「燕市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を本計画に包含させ、一体的に取り組むことで、計画の実効性を高めます。
- 本計画と同一の計画期間で「第2次燕市行政改革推進プラン」を策定し、効率的な行財政運営を行うことにより、本計画の着実な推進を図っていきます。



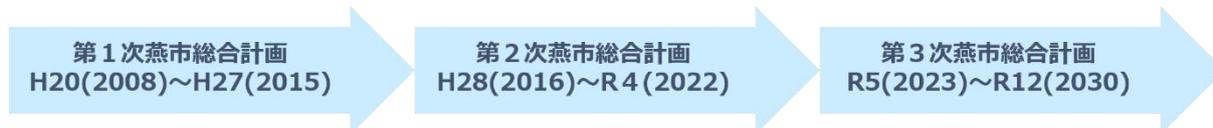
3. 計画の構成と期間

【計画の構成】

- 第1部 総論（計画策定にあたっての基本的な考え方や、本市を取り巻く社会潮流と課題）
- 第2部 基本的方向と基本目標
（まちの将来像や戦略別計画の基本的方向、達成を目指す基本目標）
- 第3部 戦略別計画（基本目標の達成に向けた個別施策）

【計画の期間】

- 本計画は、分野別個別計画に方向性を与える最上位計画です。そのため、中長期的な視点で政策の方向性を示す必要があることから、令和12年度までの8年間を計画期間として定めます。
- ただし、社会経済情勢や市政を取り巻く状況に変化が生じた場合には、計画の実効性を高めるため、必要に応じて中間見直しもしくは改訂を行います。



4. 燕市を取り巻く社会潮流と課題

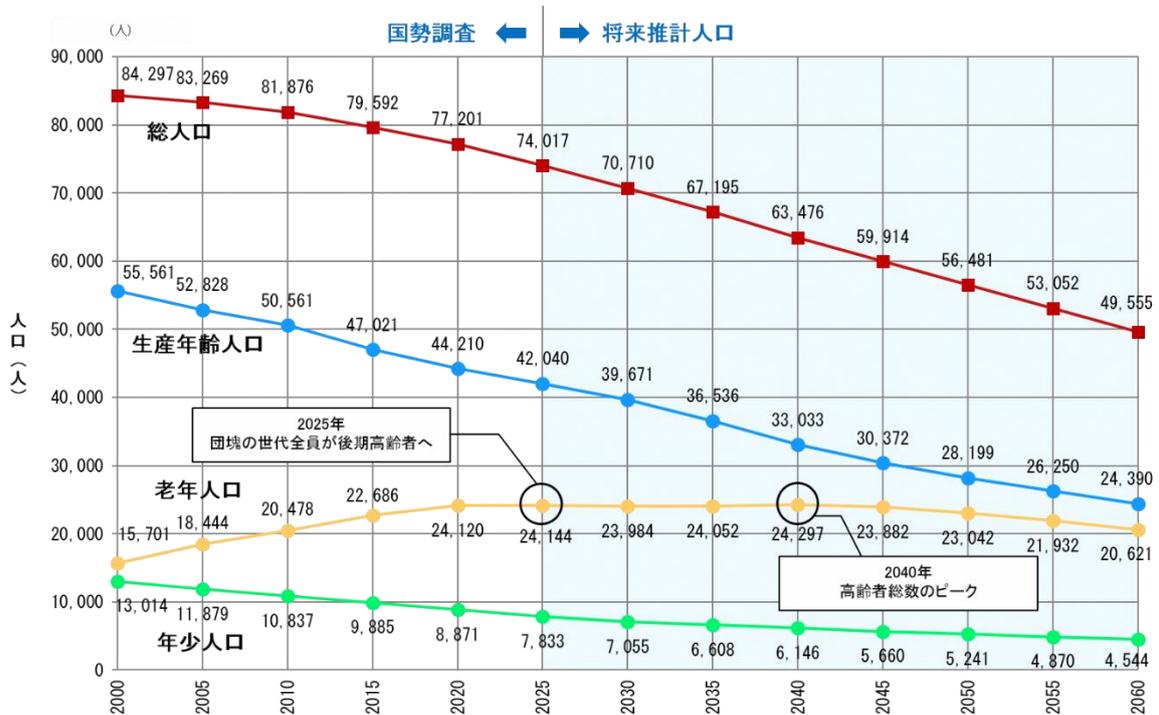
① 急速な人口減少と少子高齢化の進行

第2次総合計画では、令和4（2022）年の目標人口を78,000人に設定し、各施策を展開してきましたが、予想を超える出生数の減少や転出超過により、目標を達成することはできませんでした。

急速な人口減少・少子高齢化は、地域活力の低下や地域経済にマイナスの影響を及ぼすことが懸念されます。本市が行った人口推計結果では、今後も高齢化が進む一方で、年少人口や生産年齢人口は大きく減少する見込みです。移住促進や更なる子育て支援の充実など引き続き人口減少対策を行い、急速な人口減少に歯止めをかける必要があります。

加えて、令和7（2025）年は、いわゆる「団塊の世代」の人がすべて後期高齢者になる年です。今後も高齢者比率は増加していく推計であるため、高齢者の多様な活躍に向けた支援を充実させる必要があります。

年齢3区分別人口の推移



② 新型コロナウイルスの感染拡大

令和元年12月に中国で初めて確認された新型コロナウイルスは、瞬く間に世界中に広がり、世界経済や社会に深刻な影響を与えました。

国内では、令和2年4月に、初の緊急事態宣言が発出され、不要不急の移動自粛のほか、学校の休校、公共施設の休館など、多方面において、市民生活や経済活動への制約を余儀なくされました。その後も変異株の発生などにより、コロナ禍は長期化しており、引き続き市民生活や経済活動に大きな影響をもたらしています。

未だ感染症の収束が見通せない状況にありますが、企業活動の活性化を図るとともに、落ち込んでいた消費など社会経済活動と感染症対策を両立させ、コロナ禍前の水準に戻すための取組を行う必要があります。

③ D X（デジタルトランスフォーメーション）の進展

Society5.0の実現を目指し、I o T、A Iなどの情報技術開発や5 Gなどの情報基盤整備が進む中、新型コロナウイルス感染症拡大を契機に、社会全体のデジタル化、オンライン化が急速に進んでいます。

国は、令和3（2021）年9月にデジタル庁を発足させるなど、デジタル化を強力に推進する方針を打ち出しており、本市を含む地方公共団体は、国の動向を注視しつつ、行政手続きのオンライン化やデジタル人材の確保、企業のD X支援などの対応が急務となっています。

④ コロナ禍を契機とした地方分散型社会への移行

新型コロナウイルス感染症の拡大による外出自粛などをきっかけとして、首都圏の企業を中心にテレワークによる新たな働き方が普及し、地方への移住の関心が高まっています。

この流れに迅速かつ的確に対応し、本市を移住先・移転先として選んでいただくための取組を展開していく必要があります。

⑤ 激甚化する自然災害への懸念

地球温暖化が一因とみられる気候変動により、世界各地で甚大な被害が発生しています。国内でも、自然災害が激甚化・頻発化・広域化する中、地震や台風、洪水、土砂災害、雪害など、さまざまな種類の災害に対する一層の対策強化が必要となっています。

⑥ カーボンニュートラルに向けた動きの活発化

気候変動による自然災害が頻発化・激甚化する中、地球温暖化対策が喫緊の課題となっており、2016年に発行した「パリ協定」のもと、各締約国では「低炭素化」の政策が強力に進められています。

これを受け、国は、令和32（2050）年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする方針を決定し、本市においても、令和4（2022）年6月に「燕市ゼロカーボンシティ宣言」を表明しました。

今後、産業界や市民等と連携し、具体的な取組を行っていく必要があります。

⑦ 多様性を認めあう共生社会の実現に向けた社会の変化

全ての世代において、孤独・孤立や生活困窮の問題を抱える人や世帯が増加しており、この状況はコロナ禍において深刻化しました。こうした人々が地域社会と繋がりながら、安心して生活を送ることができるようにするため、「地域共生社会」の実現が求められています。

また、本市の女性就業率は全国的に見ても高く、外国人労働者も増加傾向にあります。国籍や人種のみならず、年齢、性別、経済事情、文化、障がいの有無など、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会を目指す必要があります。

5. 第2次燕市総合計画の進捗状況

(1) 戦略1 定住人口増戦略

基本目標（重要指標）に設定している「目標人口」については、令和4年の目標を78,000人に設定し、各施策を展開してきましたが、令和2年国勢調査結果は77,201人であり、目標人口を達成することはできませんでした。

一方で、令和2年国勢調査結果（77,201人）は、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の令和2年の推計値を340人上回りました。

(2) 戦略2 活動人口増戦略

各施策の個別指標について、令和元年度までは順調に展開してきたものでも、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による人の移動の制限等により、「これからのまちづくりのための市民意識調査」における「自治会やまちづくり協議会、ボランティア活動などへの参加割合」は30.9%（令和元年度）から26.6%（令和3年度）に、「公民館施設入館者数」は206,902人（令和元年度）から124,118人（令和3年度）に、「スポーツ施設入館者数」は、697,427人（令和元年度）から435,824人（令和3年度）になるなど、数値が急激に悪化しました。

一方で、感染症対策を講じた上で事業を再開したり、非対面・非接触による方法

を取り入れたりして、指標数値の巻き返しに努めています。

(3) 戦略3 交流・応援(燕)人口増戦略

基本目標(重要指標)に設定している「観光客入込数」については、平成28年までは60万~70万人程度で推移していましたが、平成29年以降は増加し続け、令和元年に当初の最終目標値(90万人)を達成しました。そのため、令和2年3月策定の「第2次燕市総合計画 中間評価に基づく施策等の見直し版」にて、令和4年の最終目標値を上方修正し、100万人を目指して施策を展開してきました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、県をまたぐ移動が制限されたことなどから、令和3年は500,184人となり、平成26年の基準値を下回る結果となりました。

一方で、個別指標である『ふるさと燕応援寄附者数』や『全国調査において「本市を魅力的」と答えた人の割合』は目標値を達成しました。

(4) 人口増戦略を支える都市環境の整備

「これからのまちづくりのための市民意識調査」における「バスや鉄道などの公共交通の充実に対して不満と答えた人の割合」は56.6%(令和元年度)から50.5%(令和2年度)と改善の兆しを見せたものの、再び52.3%(令和3年度)と悪化、また「ゴミの減量や再資源化、公害防止等の環境対策に対して満足していると答えた人の割合」は52.4%(令和元年度)から45.5%(令和3年度)になるなど、これらの項目に対する満足度は依然として低い傾向にあります。市民ニーズに耳を傾け、より一層効果的な事業を展開していく必要があります。

一方、「住みやすさ」の令和3年度実績は89.4%、「居住意向」の令和3年度実績は85.8%となり、いずれも令和4年度実績は最終目標値を達成する見込みです。

(5) 総括

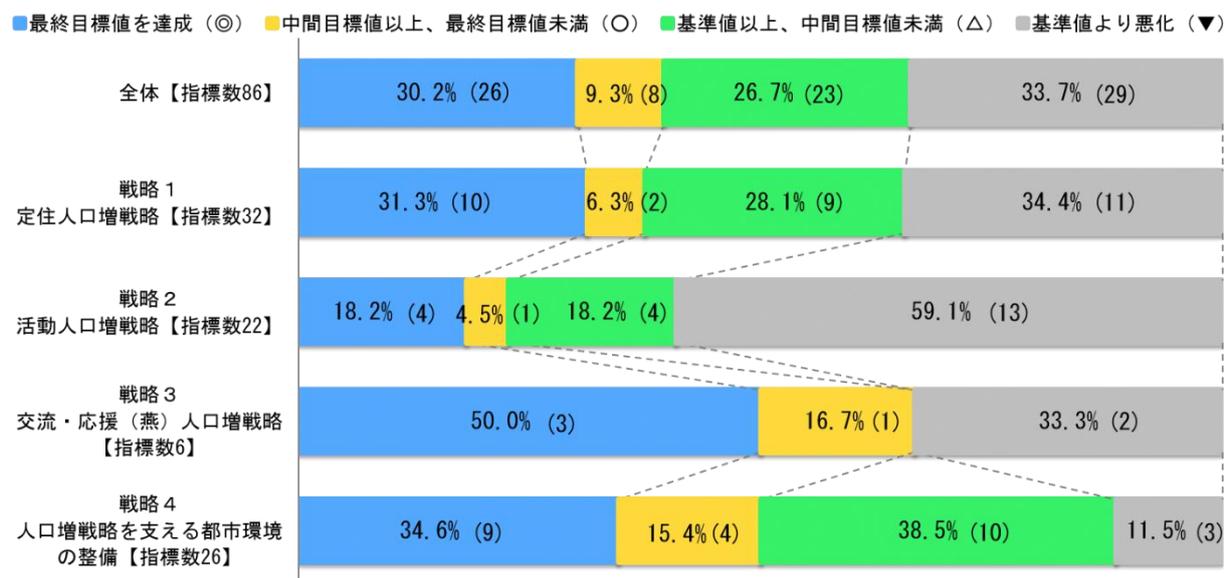
施策の達成目標として設定している 86 の指標項目について、令和 3 年度末時点での達成状況は、「最終目標値を達成」が 26 項目 (30.2%)、「中間目標値以上、最終目標値未満」が 8 項目 (9.3%)、「基準値以上、中間目標値未満」が 23 項目 (26.7%)、「基準値より悪化」が 29 項目 (33.7%) となりました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、令和 2 年度の実績において 29 の指標項目が影響を受け、実績値が悪化、もしくは実績値なしとなりました。令和 3 年度実績においても引き続き感染症の影響を受け、25 の指標項目の実績値が悪化、もしくは悪化したままとなっています。

一方で、86 の指標項目のうち、令和 2 年度実績よりも数値が上昇 (好転) した指標は 50、減少 (悪化) した指標は 27、横ばいの指標は 9 となり、一部の指標では回復基調が見られます。

第 3 次総合計画では、引き続き感染症から市民の命と健康を守るとともに、落ち込んだ社会経済活動を、できるだけ早期にコロナ禍前の水準まで回復させる取組が求められています。

第2次燕市総合計画成果指標〔令和3年度の達成状況〕



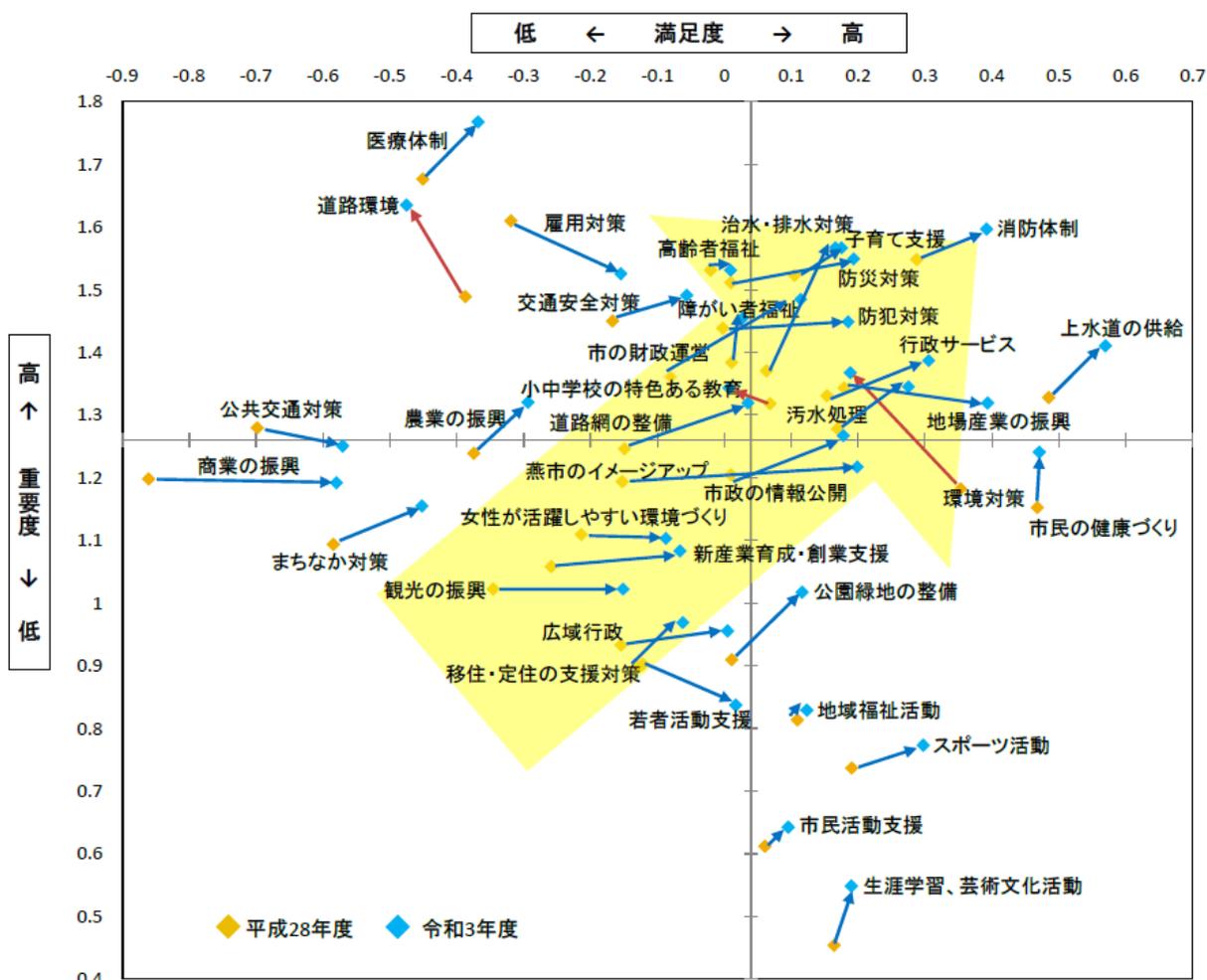
6. 市民意識調査の概要

本市では、総合計画の進捗管理に当たり、市民が日頃まちづくりや身近な環境などについてどのように考えているかを把握するため、毎年市民意識調査を実施しています。平成28年度と令和3年度に実施した「各施策の満足度と重要度」の比較による施策の効果検証では、全37項目のうち、約92%にあたる34項目の満足度が上昇しました。同時に、約81%にあたる30項目の重要度も上昇しました。

最も満足度が上昇した項目は「燕市のイメージアップ」であり、最も重要度が上昇した項目は「治水・排水対策」です。

一方で、最も満足度が低下した項目は「環境対策」であり、最も重要度が低下した項目は「雇用対策」です。

まちづくりに対する満足度と重要度〔市民意識調査〕の経年変化



※青色の矢印は満足度が上昇した項目、赤色の矢印は満足度が低下した項目です。

第2部 基本的方向と基本目標

1. 本市の将来像

人と自然と産業が調和しながら進化する燕市
～「日本一輝いているまち」を目指して～

本計画では、これまでの取組みの成果を深く浸透させ、さらに進化させることとし、前計画に引き続き、市民憲章に謳われている「人と自然と産業が調和しながら進化する燕市」を本市の将来像に掲げるとともに、さまざまな分野において市民活動や企業活動が活発に行われ、全国から注目を浴び、そのことで子どもたちが夢と誇りを持つ「日本一輝いているまち」を市民とともに目指します。

2. 基本的方向（戦略体系）

第1部 総論の「4. 燕市を取り巻く社会潮流と課題」を踏まえた新たな視点を分野横断的に取り入れつつ、前計画の基本的方向であった、「3つの人口戦略」と「それを支える都市環境の整備」を進化させながら、引き続き「日本一輝いているまち・燕市」の実現に取り組みます。

（1）定住人口戦略

「住みたい・働きたいと思う人を増やす」

産業、教育・子育て、医療・福祉の充実を総合的に進め、本市の魅力を向上させることで、燕に魅力と愛着を感じ、住みたい・働きたいと思う人を増やします。

（2）活動人口戦略

「キラキラ輝く人を増やす」

健康づくりやボランティア、地域活動に取り組む人など、市民一人ひとりが主役になって行動し、キラキラ輝く人を増やします。

(3) 交流・応援(燕)人口戦略

「訪れたい・応援したいと思う人を増やす」

観光の振興や燕のファンづくりなどにより、燕の魅力を発信し、訪れたい・応援したいと思う人を増やします。

(4) 人口戦略を支える都市環境の整備

安全・安心に暮らせる環境を整備するとともに、道路や上下水道などのインフラを維持・整備し、3つの人口戦略を支えます。

3. 基本目標（重要指標）

基本目標（重要指標）は、前述の「基本的方向」を受けて、本計画が目指す目標を指標として示すものです。本計画では、令和12年における「目標人口」および、市民意識調査によって得られる「住みやすさ」と「居留意向」を基本目標（重要指標）として設定し、進行管理を行っていくこととします。

なお、個々の施策については、施策ごとに個別指標を設定し進行管理を行います。

(1) 目標人口

これまでの少子化による人口構造により、将来の人口減少は避けることができませんが、それぞれの施策を展開し、その成果として人口減少のペースを緩やかにすることを目指します。

なお、基本目標（重要指標）の進捗確認を行うため、人口変動要因のうち、生産年齢人口に大きく影響を及ぼす出生数の増加と、転出者数の抑制および転入者数の増加を主要指標として設定し、それぞれ進行管理を行います。

①自然動態（出生数）

社人研推計に準拠して本市が独自に推計した「出生数」の将来推計値に対し、出生数の減少幅を抑えることで、将来推計値を上回ることを目指します。

②社会動態

社人研推計に準拠して本市が独自に推計した「社会増減（転出超過）」の将来推計値に対し、転出抑制と転入増加に取り組むことで、将来推計値より改善

させることを目指します。

(2) 住みやすさと居留意向

市民の暮らしの質を高め、安全で安心して快適に暮らせるまちづくりを進めることで、市外への転出を極力抑えることも人口減少対策として重要です。本指標は、「住みやすいまち」であるかどうか、また「今後も燕市に住み続けたいか」を市民意識調査にて把握します。効果的な施策を実施することで、満足度を向上させ、燕市に住み続けたいと思う人を増やすことを目指します。

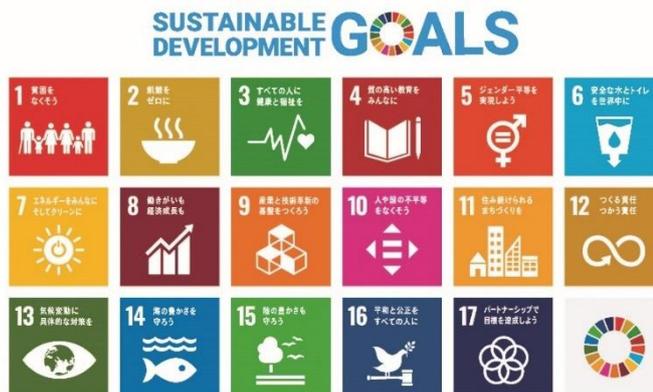
4. 地方創生に向けた重点的取組

本計画では、急速な人口減少に歯止めをかけるとともに、地域経済・社会の活性化や地域におけるDX、カーボンニュートラルの推進など、地方創生に向けた各種施策に取り組みます。これらは、「燕市まち・ひと・しごと創生総合戦略」として重点的に推進し、地域課題の解決と魅力向上につなげます。

推進にあたっては、国の第2期総合戦略や今後策定予定の「デジタル田園都市国家構想総合戦略（仮称）」における基本的方向と整合性を図りながら実施します。

5. SDGsの実現に向けた取組

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、気候変動や経済的不平等、持続可能な消費、平和など、人類が抱える大きな課題を解決し、地球を次の世代につないでいくため、2015年の国連サミットで加盟国の全会一致で採択され、日本においても多くの行政や企業、学校、市民



などが取組を進めています。

SDGsが目指す持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、本市においても持続可能な行政運営を行うとともに、市民が安心して生活できるまちづくりを進めていきます。

6. 戦略的シティプロモーション

様々な情報媒体を通じて、市政情報を効果的に市民へ伝えるとともに、施策の成果や効果についても積極的に情報発信していくことで、市民から信頼される行政を目指すとともに、市民一人ひとりの本市に対する愛着と誇り（シビックプライド）を高めていきます。

併せて、本市の魅力を市内外に戦略的に発信し、本市の知名度やイメージの向上を図ります。

7. 中期の財政見通し

本計画に掲げる施策の着実な推進に向け、毎年度の当初予算編成に合わせて中期的な財政見通しを作成し、毎年公表します。

8. 計画の進行管理

本計画で示す戦略・施策は、毎年の予算編成および個別事業の推進により実現を図ります。また、施策ごとに設定する個別指標の実績および実績に対する要因分析、市民意識調査等を踏まえ、本計画に基づく戦略・施策の成果を評価検証します。

第3部 戦略別計画（具体的な施策）

「本市の将来像」の実現に向け、戦略ごとに掲げる基本方針と施策を計画的に展開することで、戦略の具体化を図ります。

戦略	基本方針	分野	
1 定住人口戦略	(1) 活力ある産業の振興	① 商工業振興	
		② 新産業・新事業創出	
		③ 農業振興	
	(2) 次代に繋ぐ教育の推進・子育て支援	① 学校教育充実	
		② 子育て支援	
	(3) 健やかに暮らせる医療福祉の充実	① 医療体制強化	
		② 高齢者福祉充実	
		③ 障がい者福祉充実	
	(4) 地域に根付く移住・定住の促進	① 移住・定住促進	
	2 活動人口戦略	(1) いきいきと輝く健康づくり・生きがいづくり	① 健康づくり
			② スポーツ振興
			③ 生涯学習・文化活動充実
(2) つながり、支え合う地域社会の実現		① 地域福祉推進	
		② 地域コミュニティ・市民活動活性化	
(3) 一人ひとりが活躍できるまちづくり		① 若者育成	
		② 男女共同参画	
		③ 人権尊重・多文化共生	

戦略	基本方針	分野
3 交流・応援(燕) 人口戦略	(1) 魅力あふれる観光の振興	① 観光振興
	(2) つながり続ける燕市のファンづくり	① 都市交流・広域連携
② 関係人口創出		
4 人口戦略を支える 都市環境の整備	(1) 安全で安心して暮らせるまちづくり	① 防災・減災
		② 防犯・消費者保護
		③ 交通安全対策
		④ 公共交通充実
		⑤ 環境保全
		⑥ 脱炭素型社会実現
	(2) 持続可能な都市基盤の構築	① まちなかづくり・空き家対策
		② 都市環境形成
		③ 道路環境整備
		④ 上・下水道整備